

舗装の個別施設計画

令和2年3月

川崎町

目 次

1. 舗装の現状と課題

- 1.1 管理道路の現状
- 1.2 舗装の現状

2. 舗装の維持管理の基本的な考え方

- 2.1 舗装管理の基本方針
- 2.2 管理道路の分類（グループ分け）
- 2.3 管理基準
- 2.4 点検方法・点検頻度
- 2.5 使用目標年数（分類Bの道路）

3. 計画期間

- 3.1 計画期間
- 3.2 計画期間内の修繕費用の見通し

4. 対策の優先順位（補修計画の方針）

5. 舗装の状態、対策内容、実施時期

- 5.1 診断結果
- 5.2 対策内容と実施時期

1. 舗装の現状と課題

1.1 管理道路の現状

管理延長および舗装延長を以下の表に示す。

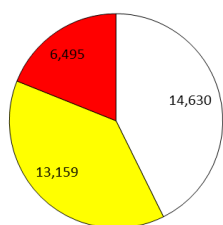
区分	種別	総延長(km)	実延長(km)
道路	1級町道	31.634	27.763
	2級町道	34.421	34.376
	その他町道	134.505	132.881
	合計	200.560	195.022

1.2 舗装の現状

対象路線（令和元年度および平成27年度）の路面性状調査結果を整理し、舗装の現状と破損の要因を把握した。平成27年度の路面性状データについては、宮城県の劣化予測式を使用して、本年度の路面性状データを算出した。

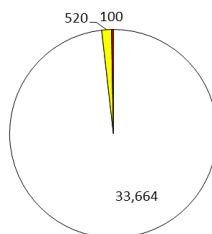
総合的な維持管理指数であるMCIが低下していることを鑑みると、本計画対象路線における破損状況は、わだち掘れによる影響が少なく、ひび割れによる影響が大きいことが想定される。

ひび割れ率 延長m



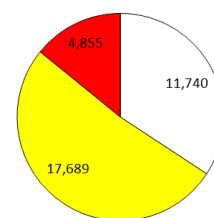
□20%未満 □20%以上 40%未満 ■40%以上

わだち掘れ量 延長m



□20mm未満 □20mm以上 40mm未満 ■40mm以上

MCI 延長m



□5.1以上 □3.1~5.0 ■3以下

2. 舗装の維持管理の基本的な考え方

2.1 舗装管理の基本方針

舗装の個別施設計画の策定にあたっての基本方針を以下に示す。

- ・過年度の路面性状調査結果と既存資料を活用し計画を策定する。
- ・効率的かつ効果的な維持管理のため、補修箇所および補修工法を適切に計画する。
- ・路線の優先度を設定し、長寿命化を意識した補修工法を設計し実施する。

2.2 管理道路の分類（グループ分け）

分類	対象道路
分類Bの道路	MC I 4 以下の路線あるいは箇所及び住民要望の寄せられている路線 緊急輸送道路あるいはバス路線等の重要とされる路線
分類Cの道路	分類BおよびDを除く路線全て
分類Dの道路	砂利道 未舗装

2.3 管理基準

(1) 管理基準

管理基準は、MCI とする。

区分	MCI	分類B, C
Ⅲ	3.0以下	・打換え ・路上路盤再生 ・切削オーバーレイ 等
	3.1～4.0	・切削オーバーレイ ・薄層舗装 等
Ⅱ	4.1～4.9	シーリング材注入
Ⅰ	5.0以上	日常管理

(2) 詳細調査・措置

詳細調査結果に基づき、措置方法を判定する。

分類 B	大型交通		一般区間	大型車の交通による破損が懸念される区間 [※]
	構造調査結果			
Ⅲ-1	基準を満たす場合		表層等修繕 (クラックシート、じよく層舗装、改質アスファルト等の リフレクションクラック対策を考慮した切削オーバーレイ等)	一般区間での補修工法に加え、 改質アスファルトの使用等の耐流動対策を実施
Ⅲ-2	基準以下の場合		路盤打換え等 (打換え工法、路上路盤再生工法等)	

※大型車の交通による破損が懸念される区間：大型車交通量がN5以上の路線、もしくは工業地帯やバス路線等の大型車の交通が懸念される路線

2.4 点検方法・点検頻度

項目	点検方法	点検頻度
分類Bの道路	路面性状調査（測定車）	5年に1度程度
分類Cの道路	巡視の機会を通じた路面状況把握または 路面性状調査（測定車）	巡視により路面性状測定車による 調査が必要と判断された場合
分類Dの道路	巡視の機会を通じた路面状況把握	
修繕区間	措置方法の選定を目的とした詳細調査 (舗装構造調査)	点検（路面性状調査）結果に応じて実施

2.5 使用目標年数（分類Bの道路）

過去の調査結果や既存資料等を踏まえ、分類Bの道路は21年とする。

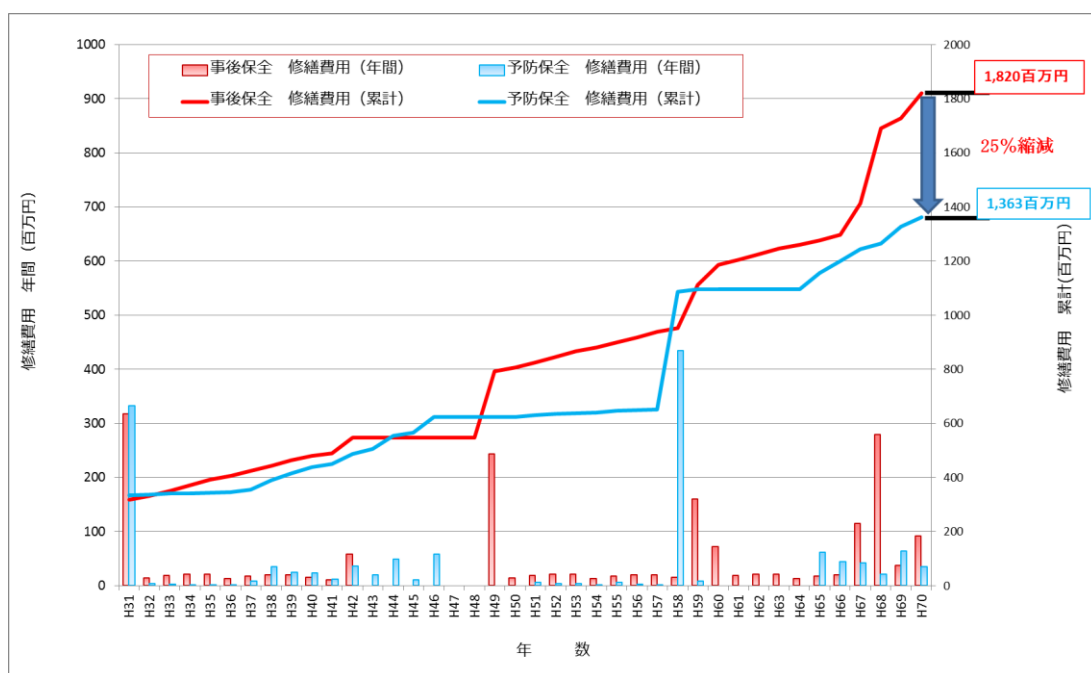
3. 計画期間

3.1 計画期間

- ・当該個別施設計画の計画期間は、5年程度とする。

3.2 計画期間内の修繕費用の見通し

これまでの点検結果を基に、今後40年間の修繕費をシミュレーションした結果、従来の方法で行う場合と診断結果に基づく計画的な修繕(予防保全)を行う場合で約25%(457百万円)縮減可能。



4. 対策の優先順位 (補修計画の方針)

- ・舗装損傷状況、路線の重要性、交通量等を考慮し補修の優先順位を決定する。

5. 舗装の状態、対策内容、実施時期

5.1 診断結果

平成 27 年度および令和元年度に点検した 34km の診断結果は以下のとおりである。
平成 27 年度の路面性状データについては、劣化予測式により、4 年後の令和元年を基準とした。

(km)

	区分Ⅰ	区分Ⅱ	区分Ⅲ	区分Ⅲ	
				Ⅲ-1	Ⅲ-2
分類Bの道路	11.7	6.0	16.6	11.7	4.9

5.2 対策内容と実施時期

補修の優先順位は、平成 27 年度および令和元年度に実施した路面性状調査結果及び、現在の沿道状況、住民要望や交通量等を勘案して決定した。最優先で補修が必要な箇所の対策内容と対策時期は別表のとおりである。

補修実施にあたっては、舗装点検要領に記されているように、措置に該当する区間のうち必要箇所を抽出し、詳細調査（FWD調査、舗装構成調査等）を実施した上で補修断面の検討を行う。補修断面の検討は、詳細調査の結果に基づき構造設計を行い、設計条件および必要等値換算厚、経済性を考慮し決定する。

尚、別表に示されている補修に必要な箇所の対策内容と対策時期については、個別施設計画の更新時や今後の財政状況などで見直しを行う。

措置が必要な箇所一覧

番号	分類	路線名	補修延長 m	点検 実施時期	診断結果	措置 実施時期
102	B	前川・枇杷落線	350	令和元年	Ⅲ	令和2年～令和6年度
203	B	大柳・前川線(その1)	1550	令和元年	Ⅲ	令和2年～令和6年度
203	B	大柳・前川線(その2)	840	令和元年	Ⅲ	令和2年～令和6年度
209	B	野上・西林山浄水場線	791	令和元年	Ⅲ	令和2年～令和6年度
213	B	北川・天神線	90	令和元年	Ⅲ	令和2年～令和6年度
1088	B	エコキャンプみちのく線	767	令和元年	Ⅲ	令和2年～令和6年度
217	B	みちのく公園線	2042	令和元年	Ⅲ	令和2年～令和6年度

以上